

2022年10月15日

第11回 原子力友の会 総会（ハイブリッド方式）

2011年11月に発足いたしました原子力友の会は、今年度11年目となります。原子力安全工学科の卒業生は1期生が2012年3月卒業して以降、着実に増えてきています。原子力友の会は、卒業生同士だけでなく、学生や教職員、そして、母校・東京都市大学／武蔵工業大学との架け橋としての役割を今後も果たしていきたいと思っておりますので、どうぞ引き続きよろしくお願いいたします。

日時：2022年10月15日（土）15：00～17：00（14：00開場）

場所：世田谷キャンパス10号館5階 原子力安全工学科実験室
Zoom ミーティングルーム

式次第：

開会のあいさつ： 会長 本多 庸郎

前回議事録の確認

1. 2021年度以降の主な出来事
2. 「原子力友の会賞」について
3. 幹事会の確認
4. 会計報告
5. 活動計画／予算計画
6. JABEE認定とご助言のお願い

原子力安全工学科 主任教授のあいさつ： 鈴木 徹 教授
意見交換

講演会

「6月13日福島第一原発見学会事後報告」

閃源会会長 学部3年 吉川将志

「大学で学んだことが社会人となった今どのように活きているか（仮）」

松本裕人さん（原電エンジニアリング株式会社）

2012年3月 修士課程修了（原子力システム研・吉田正先生）

「原子力構造健全性評価研究室での研究紹介（仮）」

原子力構造健全性評価研究室 中村いずみ先生

閉会

1. 2021 年度以降の主な出来事

2021 年 4 月 2 日(金) 入学式

2022 年 2 月 7 日(月) 修論発表会@オンライン

2022 年 2 月 17 日(木) 卒論発表会@オンライン

原子力友の会賞の審査(教員に依頼)を実施しました。

2022 年 3 月 9 日(水) 第 10 回 原子力友の会 総会@オンライン

2022 年 3 月 19 日(土) 学位授与式

原子力友の会賞を 6 名に授与、卒業生 44 名に記念品
贈呈しました。

2022 年 4 月 2 日(土) 入学式

2022 年 4 月 7 日(木) フレッシュヤーズキャンプ(東海村へ)

2022 年 9 月 世田谷キャンパス 新棟への引越し

※4 月の最初の土曜日に王禅寺にて開催しておりました「花見会」は中止としました。

※以下のホームページ等にも近況が掲載されていますので是非ご覧ください。

- 校友会会報「都市」9 号(2022 年 3 月発行)

(PDF のページ数で 18 ページ、24 ページに原子力安全工学科、原子力研究所、原子力友の会の記事があります)

https://tcu-alumni.jp/tcu-g/journal_toshi/journal_vol09.pdf

- 原子力友の会 <http://atomsun2.atom.tcu.ac.jp/tomo/index.html>
- 東京都市大学 原子力研究所 <http://atomsun2.atom.tcu.ac.jp/>
- 東京都市大学 原子力安全工学科 <http://www.nuc.tcu.ac.jp/>
- 東京都市大学 校友会 <https://tcu-alumni.jp/new/>

2. 「原子力友の会賞」について

- 2012 年度より卒論発表会にて原子力安全工学科の教員による審査を行い、優秀な発表をした者へ学位授与式において「原子力友の会賞」を授与してきました。
- 毎年、総会において贈呈人数を決定してきました。2012 年度～2014 年度は 3 名、2015 年度以降は 6 名へ授与することとしてきました。
- 2019 年度は、審査の結果 8 名が選出されたため、幹事会にてメール審議した結果 8 名へ授与することとしました。
- 2020 年度、2021 年度は、6 名が選出され、6 名に授与しました。
- 2022 年度も同様に実施することを予定しています。審査の結果により件数が増える状況となった場合には、幹事会でのメール審議により決定することとします。発表の審査は、従来通り、原子力安全工学科の教員に依頼します。
- 歴代の授賞者リストを示します。

3. 幹事会の確認

4. 会計報告

2021 年度の会計報告は別添資料に示すとおりです。

監査の幅氏にはメールにて確認を頂いております。

5. 活動計画／予算計画

COVID-19 の影響がいつまで続くか不明なためイベント等の開催については不透明な状況ではありますが、以下を計画します。

2023年2月 卒論発表会における原子力友の会賞の審査（教員に依頼）

2023年3月19日 学位授与式における原子力友の会賞並びに記念品の贈呈

2023年4月 王禅寺キャンパスにて花見会

2023年7月～10月 第12回総会&講演会

例年通り、「原子力友の会賞」および「卒業記念品」に関する支出を計画しています。

活動計画にも記載の通り、COVID-19の影響によりイベントを開催しづらい状況が今後いつまで続くのかにより計画は大きく変更になるものと考えています。必要に応じて幹事会にて検討し、運営を進めてまいりますので、ご一任のほどよろしくお願いいたします。

6. 原子力安全工学科のJABEE認定とご助言のお願い（学科から）

現在、本学では、学部教育の質を保証するという観点で、第三者による評価を受け改善していくことが求められています。工学系の学科ではJABEE（一般社団法人日本技術者教育認定機構）認定を取得することが強く推奨され、原子力安全工学科では2017年に認定取得を宣言し、2021年9月に実地審査を受審し、認定されました。2019年度卒業生（2016年度入学生）以降が認定プログラム修了生の対象となります。学科では、これを機に教育プログラムを改めて整理し、PDCAサイクルを回した継続的な改善を始めていくきっかけになったと受け止めています。

学修要覧という学科が行う教育の基本方針を定めた文書の中で「目指す技術者像」を示しています。この記載は学修要覧を毎年改訂する中で、社会の変化に合わせて適時適切に見直していくことが必要であると考えています。そのために学科として数年に一度、外部の有識者の先生方による評価を受け、ご意見を伺っています。そうした取り組みとは別に、本学卒業生の会である原子力友の会の皆さまからもご助言を頂きたいと考えています。その時々、社会情勢を踏まえて、どのようなスキルとマインドを持った人を社会に送り出すべきかといったことについてご意見を伺えると幸いです。

【問合せ先】

原子力友の会 事務局（東京都市大学 原子力研究所内）

原研代表番号：044-966-6131

原研FAX番号：044-955-6071

メール連絡先（以下の[at]は@を意味します）

内山孝文 tuchi[at]tcu.ac.jp

羽倉尚人 nhagura[at]tcu.ac.jp

以上

添付資料

- (1) 前回議事録（案）
- (2) 歴代の原子力友の会賞受賞者一覧
- (3) 幹事会メンバーの一覧
- (4) 会計報告
- (5) JABEE とは
- (6) 最近のキャンパスの様子を紹介する動画のリンク集

原子力友の会 総会（第10回） 議事録（案）

開催日時：2022年3月9日（水）17：30～19：30

方 式：オンライン Zoom ミーティングルーム

案内配信数：268名（校友会事務局にて管理されている本会のメールアドレス登録のある会員数）

出席者（敬称略）：本多庸郎、川久保政洋、石丸卓、渡邊諒、近松優真、鎌田凌河、松井隆祥、菊地漱祐、吉川将志、鈴木徹、河原林順、松浦治明、内山孝文、羽倉尚人（14名）

（西日本プラント工業（株））入江寛和さん、柴田伸久さん

配布資料：【原子力友の会】第10回総会資料一式 R01.pdf

議題及び報告

1. 本多会長挨拶

2020年度は資料の配布のみでメール審議という形であったが、今年度はオンラインではあるがリアルタイムに集まる会を開催することができた。来年度はぜひ対面で交流する場を7月か8月頃に企画できたらよいと考えている、とお話を頂いた。

2. 前回総会からの主な出来事

前回議事録の確認を行い了承された。

2020年1月31日（前回の総会に当たるメール審議の最終日）以降の本学における出来事についての紹介があった。

3. 「原子力友の会賞」について

2020年度は6名に授与したことの紹介があった。また、2021年度の発表会における審査についても紹介があり、6名が選出されたことが紹介された。今回は10回目ということで、第1回からの受賞者と発表タイトルの一覧が紹介された。

4. 会計報告

2020年度の会計報告がなされ、監査の確認済みであることも説明された。資料の中では、2021年度分についても紹介することとしていたが、学位授与式に合わせて新規入会者（卒業生）の入会金の徴収が行われるので、次回の総会において報告することとした。

本報告に対して、新規入会者への案内は行われたのか、という質問があり、この総会の後で卒業予定の4年生に対してメールにて案内するとの回答があった。また、今年の卒業生分の記念品については数が足りているのか、という質問があり、昨年追加した分で賄えることを確認していると説明があった。

5. 活動計画

2022年度の活動計画について説明があった。コロナ禍により変更になる可能性があることも併せて説明された。

6. 予算計画

2022年度の活動計画に合わせて、例年通り、友の会賞や卒業記念品に関する支出についての説明があった。活動計画と同様にコロナ禍における不透明な状況があるので、必要に応じて幹事会にて検討の上、運営していくことも併せて説明された。特に、学生の活動支援を目的とした支出については適宜検討していくことが紹介された。

7. 最近の本学及び原子力安全工学科の状況について

学科主任教授・鈴木徹先生からのご説明に先立ち、司会の羽倉から今年度学科として JABEE

(一般社団法人日本技術者教育認定機構) 審査を受審し認定された旨の紹介があった。それに関連して、学科の学修要覧にて定めている「目指す技術者像」について卒業生の皆様からのご意見を頂きたいと依頼があった。引き続き、鈴木主任教授よりスライドを使って最近の本学及び学科の状況について紹介があった。入学志願者数が近年順調に伸びていることや主な就職先についても紹介があった。



本多会長挨拶



本学科の特徴と最近の動向

- 全国でも数少ない原子力・放射線関連の学科
- 原子力だけでなく、機械・電気・物理・化学も一通り学べる
- 平成29年度より45人定員、広範な出身県分布
- 大学院に進学すれば早稲田の学位も取得
- 就職内定率は毎年100%
- JABEE(日本技術者教育認定機構)による審査を受審

2

鈴木主任教授による学科紹介

以上

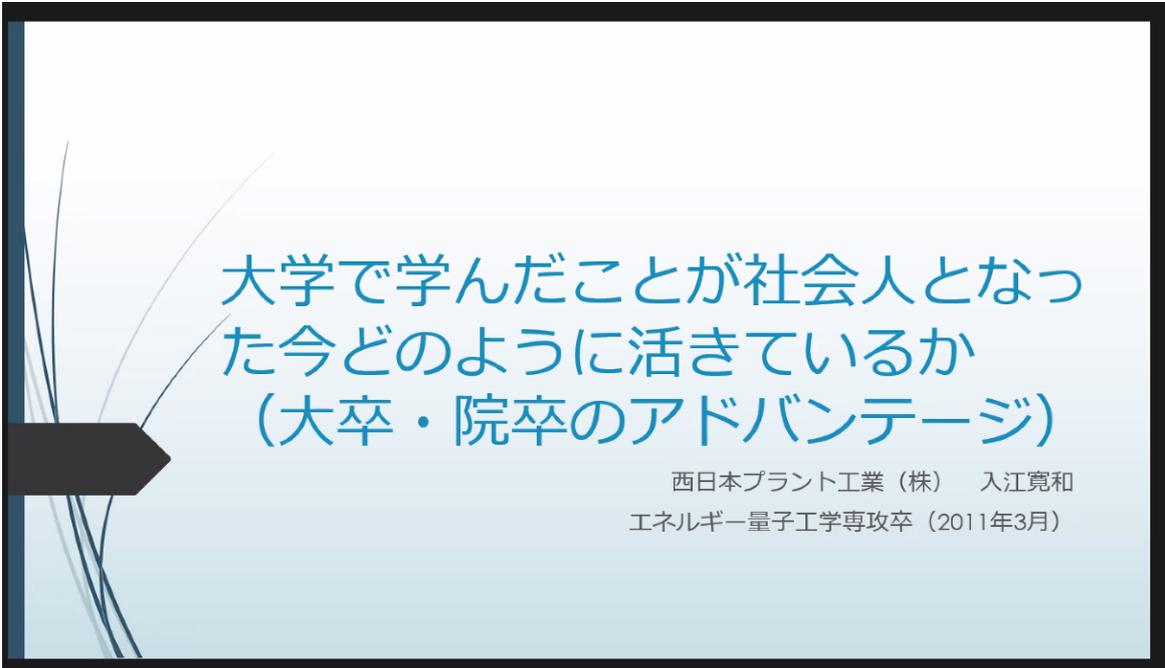
【講演会の部の紹介】

総会に引き続き、講演会の部として本学工学部環境エネルギー工学科を2009年に卒業し、2011年に大学院エネルギー量子工学専攻を修了された入江寛和さん(西日本プラント工業(株))に「大学で学んだことが社会人となった今どのように活きているか(大卒・院卒のアドバンテージ)」と題してご講演いただいた。大学・研究室で学んだこととして、専門的な知識だけではなく「思考力」「調査能力」「プレゼンテーション力」「各種コネクション」が重要であったと感じているとお話された。トラブルに直面した際に根本原因が何かを考え解決のための道筋をつける思考力、仕事を進める上で、先輩社員から聞くことも大事だが自ら調べることができるという調査能力、自分の仕事の成果を上司に説明できるプレゼンテーション力、新規事業を立ち上げるといった新たな業務に向き合う際にいろいろと情報を収集するための社外のつながりという意味での各種コネクションが非常に重要であると感じており、大学生活でぜひとも身に着けておくべき重要なこととして説明された。本講演会には入江さんの上司にあたる柴田伸久さんにもご出席いただき、川内原子力発電所での業務のご経験をご紹介いただき、原子力・放射線の分野を大学で学んでいる学生に向けて専門知識として学んだことが現場で生かされる場面があることをご紹介いただいた。

講演後の質疑応答・意見交換の時間では、参加したこれから就職活動に向かう学生から様々な質問が投げかけられた。将来どのような技術者になりたいかといった目標はあるか、という質問に対して、「専門としていることを誰よりも理解し、「彼に聞けば大丈夫」と言われるようになりたいと思っている。また一方で、会社としては誰か一人だけが知っているという状況はあまり良くないとも思っており、職場の中での技術や情報の共有も重要ではないかと感じている」と回答があった。意見交換の中では、学生時代に授業で法令に関するものがあり面白くないと感じていたが、社会人になってあらゆる法令や規格に触れるようになり、もっと勉強しておけばよかったとか、法令の独特な表現に慣れておくだけでも意味があったといった感想が聞かれた。また、学生さんに対してきちんと日本語が書けることも重要なスキルだとのお話があった。

今回、卒業後10年ほどの若手・中堅にあたる卒業生から主に学生向けとしてメッセージを伝えるという趣旨の講演会を企画することができ、先輩後輩のつながりの場である同窓会(校友会)として有意義な時間を持つことができた。学科の教員にとっても非常に参考になる部分が多く、校友会を通じて学生にも良い刺激を与えられればと感想を持った。

(文責：羽倉)



大学で学んだことが社会人となった 今どのように活きているか (大卒・院卒のアドバンテージ)

西日本プラント工業(株) 入江寛和
エネルギー量子工学専攻卒(2011年3月)

目次

- ▶ 自己紹介（在学中の研究内容、就職後の仕事内容含む）
- ▶ 卒論（修論）内容と就職後の仕事の関連性
- ▶ 入社後に実感した（大学で身に付けておくべき）重要なこと
- ▶ まとめ
- ▶ 質疑応答
- ▶ フリーディスカッション（原発で働くことのアレコレなど...）

ご講演の目次

なんでアドバンテージがあるのか

高校まで



授業形式
(先生から**教えてもらう**)

大学の研究室



研究・ディスカッション形式
(自分で**考えて、調べて、試して、結果を発表する**)

*「素材ラボ」「イラスト屋」より引用

ご講演スライドからの抜粋

(2) 原子力友の会賞（第1回～第10回） 受賞者一覧

2012年度（発表件数：39件）	
中町鴻	川崎大気粒子状物質における福島原発事故由来の放射性セシウムの長期影響
三原裕貴	受動安全の強化を目指した炉内新型注水技術の開発
山岸昇平	構造物振動を利用した発電手法に関する研究（積層型ピエゾ素子の振動発電特性の評価）
2013年度（発表件数：50件）	
大久保健	トリウム燃料を用いたPWRの燃焼特性改善に関する研究
四宮権一	α 線を利用したNO _x 除去に関する研究
唯野誠哲	三次元汚染空間における線量評価手法に関する森林モデルの開発
2014年度（発表件数：42件）	
佐藤嘉晃	小型軽量炉心型原子力推進ロケットシステムの核熱特性とノズル設計に関する研究
飯村駿介	固相抽出法による放射性ストロンチウム分析
須藤航太	原子力施設における機器三次元免震に関する研究
2015年度（発表件数：39件）	
今村康平	積層型免震装置の終局段階の力学的特性に関する研究
内田紗椰	粒子線治療の深部線量分布改善のための軽・重粒子線の比較検討
瓜谷宥紀	内部発熱を伴う球の周りの熱伝達に関する基礎研究
大川佳祐	ABWRの格納容器破損シナリオに対する緩和操作タイミングの影響に関する検討
小出純平	共鳴吸収領域でのパルス中性子イメージングにおける高空間分解能化
佐藤瞬	X線吸収微細構造による抽出剤に吸着された希土類元素の評価
2016年度（発表件数：37件）	
江森達也	シルカロイ再生を目的とした塩化物浴中におけるZrの電気化学
田治見祐里	Vを含む熔融ホウケイ酸ガラス中の模擬廃棄物の局所的な構造—アルカリ含有率の効果
辻晃慶	2030年度の原子力発電比率目標を達成・維持するための軽水炉・高速炉導入シナリオ検討
中田裕	PWRの1次系シースルーモデルの試作によるフィードアンドブリードの研究
仲野智	Na冷却高速炉におけるCDA時再臨界を回避する炉心形状の検討
中村建翔	モリブデンを含むフッ化リチウム熔融塩に酸素が与える影響
2017年度（発表件数：32件）	
大谷知世	コアキャッチャを用いた燃料デブリ冷却システムの研究
高崎史晟	化合物半導体検出器を用いたデジタル計測システムにおける高計数率対応のための基礎研究
仲村宗真	高燃焼度化のための円錐台CANDU炉心
持丸貴則	自然循環Na冷却金属燃料小型高速炉の核解析
森川徹	福島第一原発の燃料デブリにおける「回収時に落下した際の臨界性と堆積角度の関係」及び「残留核分裂生成物の放射能と放出時化学系」に関する研究
渡邊達也	APDを用いたエネルギー分散型PIXE分析用X線検出器の基礎研究

2018年度（発表件数：36件）	
長澤巧弥	熔融 CaCl ₂ -LiCl を用いた燃料デブリ中 Zr の電気化学的回収
木下昂亮	水銀を可燃性毒物として用いる BWR の核特性
武藤大紀	共沈法を用いた多摩川河川水における放射性セシウムの定量
村山公仁	サブレーションプールにおける FP 捕獲挙動に関する基礎研究
横山諒	損傷炉心物質の共晶熔融と流動性に関する実験的研究
若菜志保	リーチスルー型 APD を用いた低エネルギー X 線検出器の開発
2019年度（発表件数：32件）	
池田和	Deep learning を使用した応答スペクトルの減衰補正
榎本重亮	非スプレイ領域における格納容器内エアロゾル状 FP の挙動に関する検討
舘野遥青	地震 PRA における応答相関に関する検討
新田旭	重点推進研究における FP の有効利用に関する研究－白色金属析出物の冶金学的観察－
原田龍	地震・津波の重畳を考慮した確率論的安全性評価手法の基礎的研究
本多栄輝	損傷炉心から落下した熔融燃料の拡がり挙動に関する基礎実験と数値解析
山田優輝	地震津波を考慮した確率論的リスク評価手法の実機適用性に関する検討
寺山翔大	地震リスク評価における乱数生成法の開発
2020年度（発表件数：37件）	
長谷川京吾	遠心力による自然循環冷却型宇宙電源用小型原子炉の概念設計
木村優斗	金属燃料を用いた長寿命型高中性子束照射炉の概念設計
小峰諒	積層ゴム免震要素の終局特性を考慮した地震リスク評価に関する研究
佐々木怜央	PIGE への CdTe 半導体検出器の応用研究
増子元海	重点推進研究における核分裂生成物の有効利用に関する研究－合金への水素吸蔵評価法の検討－
杉浦友哉	圧力抑制プールの水面近傍におけるエアロゾル FP の挙動に関する研究
2021年度（発表件数：44件）	
小幡歩夢	医用 RI 自給に向けた燃料デブリと発電用 BWR の活用
工藤仁美	原子力施設の設計を超過する地震道に対するスロッシング挙動の数値シミュレーションに関する研究
樽見直樹	燃料デブリ収納管での水素低減を目的とした触媒開発－模擬白金族合金の熱力学的安定性評価及び基本的性能の検討－
近松優真	荷電粒子誘起発光を用いた分析手法の基礎検討
福江さくら	STAMP/STPA に基づく要素間相互作用を考慮した住民避難多層レイヤーモデルの構築
箕輪一希	アルキルジアミドアミン吸着材中希土類の局所構造解析

No.	氏名	卒業 年度	郵便 番号	住所	電話番号	支部	所属先 メールアドレス	役職
1	本多庸郎	S49				関東		会長
2	高橋久永	S59				関西・北陸		支部長 関西・北陸
3	山野俊也	S59				関東		副会長
4	大森茂美	S57				関東		代表幹事 関東
5	大枝 伸	S58				関東		支部長
6	幅 聡	H01				関東		監事
7	加藤光弘	H01				関東		幹事
8	長尾美春	H02				東海・東北		支部長 東海・東北
9	古谷 賢	H07				関西・北陸		代表幹事 関東
10	森 智弘	H07				関東		幹事
11	早川信博	H11				関東		幹事
12	川久保政洋	H13				関西・北陸		幹事
13	泉 正憲	H14				関西・北陸		幹事
14	三木陽介	H16				関東		幹事
15	染谷洋二	H17				東海・東北		幹事
16	羽倉尚人	H17				関東		幹事(企画)
17	吉田直弘	H16				関東		幹事
18	杉山大輔	H17				関東		幹事
19	内山孝文	H13						事務局
20	松本哲男	S47						事務局

2022 年 10 月 15 日

会計報告書

年度： 2021年度

団体名： 原子力友の会

報告期間： 令和3年4月1日～令和4年3月31日

収入の部		
科目	金額	摘要
前年度繰越金	1,140,484	
受取利子（4月）	64	4/1入金
会費振込（令和2年度卒業生）	111,000	3,000×37名（参考資料参照）
受取利子（10月）	610	10/1入金
校友会から活動支援	20,000	3/14活動支援金として入金（振込）
校友会から活動支援	100,000	3/29活動支援金として入金（振込）
合計	1,371,496	

支出の部		
科目	金額	摘要
友の会賞	30,000	図書カード（5000円×6枚）：別紙1
合計	30,000	

差引収支	1,341,496 円
-------------	--------------------

備考

確認 幅	作成 内山
	

JABEE (一般社団法人日本技術者教育認定機構) とは

- * JABEEは、**技術者を育成する教育プログラムを「技術者に必要な知識と能力」「社会の要求水準」などの観点から審査し、認定する非政府系組織**です。
- * 技術士制度は、文部科学省が所管する、優れた技術者の育成を図るための国による技術者の資格認定制度です。JABEEが認定したプログラムの修了者は、文部科学大臣の指定を受けて**技術士の第一次試験が免除**されます。

当学科は2017年度入学生から日本技術者教育認定機構による教育の質評価を受けます

受験生の皆さま

原子力安全工学科では2017年度の入学生からJABEEによる学科教育の受審対象学年にいたします。これは日本技術者教育認定機構 (JABEE) という外部評価機構によって、原子力安全工学科の教育内容全般の質の高さを審査してもらう制度で、審査が承認されますと入学された学生の皆様には**技術士 (原子力・放射線部門) の一次試験が免除される特権**が与えられます。当学科は「工学 (融合複合・新領域) 及び関連のエンジニアリング分野」という分野での認定を計画しています。

受審は完成年度 (全4年) の1年前、いまから3年後になります。技術士は終身の資格です。原子力の学科に対するJABEE受審は我が国初めてです。どうぞご期待のうえ学科への受験をご検討ください。入学をお待ちしています。

(主任教授 横堀 誠一)

認定開始年度：2019年度として認定！

これで終わりではなく、**継続的に教育改善をしていることが今後も審査されることになる**

原子力安全工学科のホームページにて2017年に受審することを宣言！

(6) 最近のキャンパスの様子を動画で紹介

東京都市大学 創立 90 周年記念ムービー

<https://www.youtube.com/watch?v=o3UrQO8eZsg>

世田谷キャンパスの約 3 分の 1 をリニューアル -東京都市大学キャンパス再整備事業-

<https://www.youtube.com/watch?v=SzOyJwTWGWk>

【東京都市大学】ゲームチェンジ時代を切り拓く ひらめき「探究」プログラムを紹介します！

<https://www.youtube.com/watch?v=WNJibxtexU8>

【東京都市大学】未来がつながっていくよ！ ひらめき「探究」プログラムで実現できること！

https://www.youtube.com/watch?v=QKNxNSa_cLg

■応用化学科

主任教授 高橋 政志

2021年度、本学科は「応用化学科」へと名称を変更して、都市大唯一の化学系学科として新たな一歩を踏み出すこととなりました。1997年の学科立ち上げ以来、エネルギー基礎工学科から環境エネルギー工学科、エネルギー化学科へと受け継がれてきた実績を基に、教育・研究をさらに深化・発展させて参ります。

教員の異動に関しては、3月に武哲夫先生と坂井秀敏先生が退職されたことを報告いたします。武先生は2009年の着任以来、12年間にわたって学科の化学工学分野を支えられ、エネルギー化学専攻では長らく主任教授を務められました。坂井先生は2016年から5年間、教育講師として主に学科の低学年教育でご尽力いただきました。一方、4月には秀島翔先生と大野哲也先生がそれぞれ准教授と教育講師として着任され、学科教員が少しだけ若返りました。新しいメンバーを迎えて、これからの学科の研究・教育の広がりや充実が期待されます。

2021年度、学科の新入生は76名（内24名は女子）でした。2020年度からのコロナ禍の影響で、フレッシューズ・キャンプは学内で半日の日程に短縮され、授業も対面での実施がままなりません。このように、まだまだ我慢の時期が続いておりますが、執筆時点（11月中旬）では感染状況が落ち着いてきたことから、少しずつ以前のキャンパスライフを取り戻しつつあります。まだ先の状況は見通せませんが、引き続き教育・研究活動の維持と学生の安全確保の両立に努めてまいります。

学科の名称は変わりましたが、校友会の皆さまには今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



学科別入学式（上）とフレッシューズ・キャンプ（下）の実施風景

■原子力安全工学科

主任教授 鈴木 徹

原子力安全工学科では2021年度に48名の新入生を迎えました。2020年度より猛威を振るい続ける新型コロナの影響により、恒例のフレッシューズ・キャンプ（例年1泊2日）は2021年度も開催できませんでしたが、その代わりに世田谷キャンパス3号館の大教室に新入生を集め、閃源会による大学紹介クイズや学科教員による研究室紹介を通して学生間の交流や学習意欲の向上を図り、スムーズな大学生活のスタートに繋がりました。新型コロナの影響で大学での授業形態は対面授業が主体になったりオンラインが主体になったりと目まぐるしく変化しましたが、緊急事態宣言が明けてからは落ち着きを取り戻しつつあります。

また、世田谷キャンパスでは敷地の約1/3に相当する建物のリニューアルが進められており、卒業生の皆様が見慣れていた10号館前のテニスコートには現在、着々と新たな建物が組み上げられています。原子力安全工学科はこの建物の最上階（5階）に移転する予定です。数年後の「都市大創立100周年」に向けて当学科も新たなフェーズに突入する準備が進められています。卒業生の皆様が一層リニューアルを遂げた原子力安全工学科にお越しいただくこと、職員一同、楽しみにしております。今後も優秀な人材を社会に送り出すべく、積極的な活動を続けていきますので、ご支援・ご指導の程、宜しくお祈り致します。



世田谷キャンパスB地区における新棟建設の現場

■原子力研究所

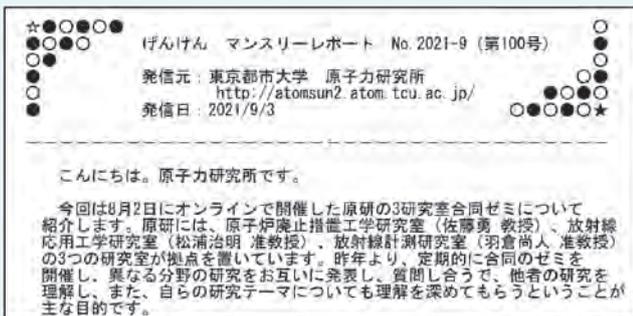
管理室員 羽倉尚人（2005エネルギー基礎）

毎月一度の情報発信！げんけんマンスリーレポート

1960年に開設された原子力研究所は61年目となりました。研究所の中心である「武蔵工大炉」は1963年から1989年まで運転してきましたが、すでに運転停止後の方が長くなりました。

廃止措置を行っている原子炉施設は日頃どんなことをしているのか？あまり知られていない原子力研究所の日常を少しでも学内外の方に知っていただくことを目的として2013年6月から毎月一度、学内のメーリングリストにて情報発信をしています。2021年9月には100号を配信しました。学生実験を中心とした教育活動や研究室の発表会などを紹介するとともに、施設の維持管理において重要な日々の管理業務についても紹介しています。バックナンバーはホームページでも公開しており、これを見た卒業生が連絡をしてきてくれた時には情報発信の重要性を改めて感じました。HPからぜひ一度ご覧ください。

（原研 HP：http://atomsun2.atom.tcu.ac.jp/）



第100号のマンスリーレポートの冒頭部分

■自然科学科

主任教授 橋本 義武

自然科学科は知識工学部の定員25名の学科として誕生してから2021年度で13年目、理工学部に移ってからは2年目となります。現在の定員は60名です。知識工学部時代には歴史ある他学科の方々より多くのことを教えていただきました。理工学部に移ってからも、同じ学部となった歴史ある他学科に学びつつ、歩みを進めております。

近年、中島先生・服部先生・津村先生・西村先生と、若手のメンバーが増え、それぞれが研究に教育に学科運営に活躍されています。彼らの研究がメディアに取り上げられたり、学内で表彰していただいたりということがあると、学科の皆で喜んでおります。科研費を獲得する教員が増えて参りましたことも有難いことです。

2019年度の水害、2020-21年度のコロナ禍と、残念ながら学生たちには誠に気の毒な状態が続いています。自然科学科の教員は全学の数学・理学の基礎教育の務めも担っておりますので、オンライン授業への対応等で例年にも増して多忙を極めている毎日ですが、困難の中にある学生たちのために我々ができることをしっかりやって参りたいと思っております。

学生の就職活動に際しては、卒業生の方々に大変お世話になっております。活躍されている諸先輩方と直に接する中で、学生たちが見る見る成長していく姿に目を瞠っております。歴史の浅い自然科学科ですが、これから本学科の卒業生たちが大学のために貢献していただけますことを願っております。



自然科学科津村准教授の研究成果

■通友会

会長 矢澤 猛 (1972通信)

校友会の皆様、いかがお過ごしでしょうか？

あまり多くない事を願いながら、新型コロナウイルスにより罹患された方々、並びにそのご家族の方々に対しまして心よりお見舞い申し上げます。

通友会の活動は2020年に引き続き新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言によって、ほとんどの活動が中止となりつつあります。本誌の原稿を書いています2021年11月現在、ようやく10月末に全国の緊急事態宣言が解除され感染者が大幅に減少してきています。まさに活動開始のシグナルを得た感じで、早速パネルディスカッションの企画を進めています。大学からも4thクォーターに入り全面的に対面授業が始まるとのグッドニュースも入ってきました。まだまだ第6波の心配もあり、油断のできない状況ではありますが、なんとか通友会の活動を通じて卒業生の皆さんと世の中を明るくしたい思いで取り組んでおります。パネルディスカッションに関しては私の知る限り通友会として初めての試みですが、後日その報告を出来ることを楽しみに役員一同頑張っています。

これからどのような日常になっていくのか定かではありませんが、校友会ならびに他学科同窓会との連携を深め通友会役員一同出来る限りの活動を企画、実行していきたいと思っておりますので、皆様のご理解ご協力をお願い致します。



オンライン会議の風景



2020年度の卒業生

■原子力友の会

羽倉 尚人 (2005エネルギー基礎)

設立10周年！在学生と教職員と卒業生の架け橋に

2011年11月に世田谷キャンパスにて設立総会を開催し、正式に発足した原子力友の会は2021年で10周年を迎えた。2008年に設置された原子力安全工学科の学科同窓会として立ち上げられたが、同時に王禅寺の原子力研究所にて卒論・修論に取り組んだ修了生の同窓会でもある。王禅寺の修了生は学部生が1968年から、大学院生は1982年から現在までにのべ670名を超える。原子力安全工学科ができる前は、電気や機械やエネルギーなどの学科から学生が集まり研究室を構成していた。元々の所属は違えど王禅寺の研究室で大学時代のもっとも濃密な時期をともに過ごしたことで思い入れが強い。

「10周年の節目となる今年度は何かイベントを」と計画していたが昨年度に引き続き COVID-19感染拡大防止の観点から会合は見送らざるを得なかった。コロナが落ち着いたところに改めて企画したいと考えている。こうした厳しい状況にあっても社会へと巣立っていく学生はいる。そうした卒業生との交流の機会も今後作っていきたい。

(<http://atomsun2.atom.tcu.ac.jp/tomo/index.html>)



2020年度の学位授与式での原子力友の会賞の授与

■経友会

会長 海老沼 利光 (1974経営)

1) オンライン活用の役員会は「メリット」があります

オンライン役員会を定例的に開催し、事業計画、学生支援策、予算案などを企画立案、審議しています。オンラインでは、移動の時間が節約でき、地方で活躍する現役員とのコミュニケーションが容易にとれるという利点があります。コロナ禍が一日も早く収まることを祈りつつ、今後も、「対面とオンライン」のハイブリッドで活動してゆきます。

次年度以降も「総会・懇親会だけの活動」にならない様に心がけます。

2) 学生支援活動：「エビ会」を継続しています

学科研究会：知湊会（旧経工会）の学生の皆さんに自主研究会：「エビ会」を継続しています。実践体験談や就職活動の支援を開始して5年目を迎えました。また、エビ会活動の学生成果を「校友会10周年記念事業の一環」に参加したく取り組んでいます。

3) 今年も「経友会ニュース」でお知らせします

経友会活動をお知らせする「経友会ニュース第14号」を2022年4月1日に発行を予定しています。70歳以上の会員にはご自宅へ郵送配布します。70歳未満の会員には、お手数をお掛けしますが、ペーパーレスにより郵送費を節約したく、経友会ホームページ掲載をご覧ください。



オンライン学生指導会「エビ会」の様子

■さきがけ

宮内 和輝 (2016自然科学)

With コロナの新しい生活様式が定着しつつありますが、依然、新型コロナウイルスの脅威は収まらず、学科同窓会としての期待は高まりつつあります。人との交流を制限せざるを得ない状況で、新たな出会いや人とのつながりを創生する役割を果たすことが極めて重要と考えながら、さきがけは同窓会活動に取り組んでおります。本同窓会における2021年の事業は下記の通りです。①2020年度さきがけ賞授与（6名）②会報「さきがけ」第10号発行③ホームページ更新④2021年自然科学科ホームカミングデー。自然科学科の在学生増加に伴い、さきがけ賞の授与者数をこれまでの3名から6名へ増やしました。受賞者は、池上 聖人さん、小林 星羅さん、櫻井 耀亮さん、武田 創佑さん、辻 涼介さん、渡邊 萌さんです。また2021年11月にホームカミングデーを開催し、学生・卒業生・教員延べ35名の参加がございました。ホームカミングデーでは主任教授の橋本義武先生のご講演のほか、卒業生二名の講演会を行いました。そのほか、各種活動状況は、さきがけホームページに掲載しております。

さきがけにおいては、新規スタッフの募集をしております。ご協力を頂けるかたは sakigake_tcu@yahoo.co.jp までご連絡をお願いいたします。



さきがけホームカミングデーオンライン